四季報No.68　2007.12

鴨東通信

おうとうつうしん

てぃーたいむ

近代京都を自由に読み解く
伊從　勉・高木博志・丸山　宏

特別寄稿

河鍋暁斎の画業――席画そして本画――
河鍋楠美

史料探訪㉛

明治期の教育関係資料
古野　貢

■私のノートから■

吉野林業史研究に寄せる私の思い
谷彌兵衛

■源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第二回〉■

営々と続く注釈作業
伊井春樹

◉新刊案内◉

みやこの近代
明治前期の教育・教化・仏教
敢えて風雪を侵して
増補・改訂　西村茂樹全集　第5巻
関西モダニズム再考
近代茶道の歴史社会学
酔うて候　河鍋暁斎と幕末明治の書画会
御堂関白記全註釈　寛弘5年
仏教思想と浄土教（2刷）
近世吉野林業史
畿内の豪農経営と地域社会
住友史料叢書　第22回
続　洪庵・適塾の研究
公家と武家　Ⅳ
中世蹴鞠史の研究
伊藤孝男の百人一首・競技かるた

冬

思文閣出版

近代京都を自由に読み解く

伊從　勉（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
高木博志（京都大学人文科学研究所准教授）
丸山　宏（名城大学農学部教授）　（50音順）

■近代遺跡を訪ね歩いて研究発表■

丸山：今回出版される『みやこの近代』の母体である近代京都研究会は1998年6月に発足しました。京都のいろいろな場所に行き、そこで生の京都に触れてみようと、伊從さん・高木さん・私の3人で呼びかけました。もともとは研究会というより京都をネタに雑多なことをやろうというのがありました。

伊從：京都市内では無鄰菴、大徳寺や東福寺の塔頭、立命館の中川小十郎の旧邸や町屋など近代の遺跡を訪ね歩きましたね。そしてその場で発表してもらうのです。

丸山：途中から科学研究費補助金の交付を受けましたが、最初はみんなで会場費を出しあっていました。手弁当だから逆に意識の高い人のみ集まりまして、同好の士が大勢いるんだということがわかりました。

高木：近代の学知のなかで文献研究とフィールド・巡検があると思うのですが、その2つを組み合わせる手法ですね。私が歴史学で丸山さんが造園、伊從さんが建築ということでそれぞれの分野のネットワークがありましたので、普段はできない学際的な研究ができました。研究会は2003年から京都大学人文科学研究所の共同研究として組織され、現在は近代古都研究ということで、奈良や沖縄の首里、城下町や三都の問題もとりあげています。

丸山：科研費でやっていた時期と人文研に移った期間にまたがる2002年11月から2004年12月にかけて、研究会として京都新聞に週1回の連載を持ちました。109回にわたり、40人の執筆者がそれぞれの関心にもとづき、1回1600字の論を展開しました。本書はその連載をもとに各執筆者が加筆・修正を行い、編者である私たち3人がテーマ別に整理・再構成を行ったものです。

■時流に動じない近代研究■

伊從：京都というのは歴史の長い都市ですが、応仁の乱以前のものは本当に少ない。さらに、都市としてみた場合は、1864年の蛤御門の変以後のものしかないわけです。町自体は非常に新しいのですが、おうおうにして、古代や中世のメタファーが現代の形容に使われるのです。例えば町衆だとか、平安神宮に見られるような平安イメージですね。それはかなり政治的に利用されることが多い。そういうイメージが持ち出されることによって、近代に都市が大きく変わったことが気づかれにくくなる。そういう意図があったかどうかは微妙な問題ですが、近代のものが大事にされていないというのは確かです。イメージ的な操作から中立に、落ち着いて冷静に近代に起こったことをみていこうというのが研究会の趣旨です。

伊從氏

高木：京都には文化戦略の場という面があります。私は日本の文化や京都の文化が近代にどう再構成されていくかを研究していますので、京都が持っている文化の政治的な利用が気になります。現在起きていることで言いますと、ジュニア京都検定の問題や、観光言説のなかの京都や、1994年の「古都京都の文化財」の世界遺産登録後の変化などです。古都京都というのが顕彰され、一般には京都ブームとされています。ただ歴史学にかかわり地道な京都研究の現状はどうなのかというと、「京都府史」が刊行されず、博物館の歴史展示もない。古都京都が顕彰されながら、文化施策はうわべの発信だけで、京都府立総合資料館や京都市歴史資料館も非常に予算が少ない。そういうなかで、どう地に着いた研究をしていくかが大事だと思います。そういうことを自由に発言できる場が本研究会にはありました。

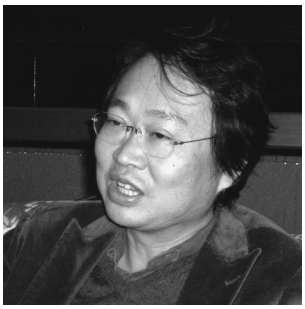
■京都の多面性■

伊從：文化に対する予算が少ないこともありますが、統一的な「京都の歴史」というものは多分書けないと思うのです。それは京都の多極的なあり方を象徴していて、部分的なものしかできない。だから私たちが試みたような方法、つまり時流から距離をとり、冷静に見るということが必要になるわけです。歴史学の蓄積と観光的なイメージ操作とは必ずしもつながっていない。そこが今の京都の問題なのですが、それが京都のかかえる深さでもあると思います。

丸山：京都というのは重層的なものが詰まっている都市です。そこを読み解いていくためには、目的意識をもつと効率的ですが、その方向にのみ目がいってしまう。そうではなく、逆にそれぞれの専門家が集まって、それぞれの話をしていただいて、そのなかから京都のピュアな面が出てくるかも知れないと思っています。京都というところは、伝統があるが進取の気性もすごくあるところで、IT関係でも京都で特許が多い。新しいことをすることが伝統というところがあります。伝統と革新があってそのバランスの上に生きている。お公家さんもそうです。

高木：断片的な知識とかクイズではなくて、どういう歴史の流れの中にあったのか、わかりやすく考えたいということです。例えば、本書で私が書いた葵祭は、今までに何度かの断絶と復興があり、そのたびに大きく変貌を遂げています。平安時代から江戸時代までは、基本的に宮中の年中行事と賀茂社の葵祭が連動していたのですが、明治維新による東京「奠都」の影響で、前近代の勅祭としての葵祭が断絶します。明治17年（1884）に復興するのですが、東京の皇居では葵祭の年中行事が行われることはなく、古都の新しい「伝統」文化として再興されたわけです。

丸山：私は造園史の立場から、円山公園と仙洞御所・淀城址の話を書かせてもらいました。円山公園が京都での公園第一号だということはよく知られていると思いますが、それ以前にも京都御苑内の仙洞御所と淀城址で公園計画が目論まれたことがあったのです。地方の勧業政策のなかで結局公園は実現されなかったのですが、地元の人がお読みになって、もっと違うことが出てこないかなと思っています。円山公園は今も花見の時期は賑やかですが、かつては人工鉱泉の温泉や外国人専用のホテルが建ち、政治の舞台としても使われています。そんなことがあったのか、と思ってもらえたら幸いです。


高木氏

丸山氏

■京都のイメージを読み解く■

伊從：日本の都市の近代というのは、西洋の都市と違い、江戸時代のままの幅の狭い道路しかない都市を、どうやって近代に対応させていくかという課題を抱えていました。これは京都に限らない、全ての都市の課題でした。結果的に言うと、日本は国が主導で都市の近代化を行ったのです。そうせざるを得なかったところがあるのですが、統一マニュアルでやりましたから、その都市その都市の歴史的文脈が尊重されず、そのために現在起きているような問題が出てくるわけです。1970年にユネスコが奈良と京都に関する会議を開いたときに、両都市ではどうして中心部を守らないのだ、そこが歴史的地区じゃないかというおしかりをうけたのです。なぜ京都で都心部を歴史的地区と考えられなかったかというと、それは日本の統一マニュアルで中心部が商業地域と捉えられていたからです。

町家の場合は、建て替えても土地の使い方としては江戸時代とほぼ同じです。その意味で歴史的地区なんですよ。ところが、ビルに建て替わるとそれが全然違うものになってしまう。これは京都ではなくなります。郊外にも同じ問題があります。京都はそういう意味で都心と周縁に問題をかかえています。京都らしさというのが、近代の都市づくりのなかでどう考慮されたのかというのを、十分考え直す時期に来ていると思いますね。目に見えないところで京都らしさが残っているというのが京都の可能性だと思います。

高木：核になる京都イメージということで申しますと、1890年代以降に古代から近世までの時代区分ができて、10世紀以降の国風文化が、中国・朝鮮にないものということで大事にされます。平安神宮は1895年に創られますし、1893年にシカゴ万国博覧会で、宇治の平等院鳳凰堂を日本館のパビリオンにするように、意匠として日本イメージを打ち出してい

く時期になります。貴族文化がプラスイメージになり、京都文化・日本文化として語られていくのです。そういう時期とあいまって例えば嵯峨野や宇治で『平家物語』や『源氏物語』の古典文学との結びつきがどんどん掘り起こされていく。全体としての京都イメージができて、大衆社会状況下でツーリズムの資源になっていきます。

伊從：観光の京都イメージが少し危ないのは、部内者を強調しますよね。町衆とか町の共同体とか。ところが都とか国際的都市というのは、外から来る人がいるから活性的なのですよね。京都の観光言説というのは身内とか都市の内部のしきたりを強調して、あたかも部外者がいないかのようにはじにおかれるのです。実は近代の京都は、部外者が都市をつくってきています。部外者がどう近代京都にタッチしていたか、というのが見落とされがちなのです。私自身部外者なので京都人になれませんし、なろうとも思いませんが。そういう部分が観光に結びついているとしたら、他のヨーロッパの都市の観光などとは違ってくるでしょうね。よそものをどういう風に受け入れているかによって、その都市の懐がはかられます。あまり地域コミュニティーを強調するとそういうところがどうなるかなと心配はあります。

丸山：執筆者をみてみると、京都の地の人がほとんどいませんね。私は京都生まれですが、父も母も京都ではありません。しかも洛外の東山です。京都人にいわせると鴨川を越えたら京都ではないらしいから(笑)。

伊從：ということはよそものが語る京都の歴史ですね。京都の人をあおって刺激を与えて反応をみるのも、活性化する一助ではないかと思います。中京のど真ん中でも新陳代謝が激しかったというのは、研究でも立証されていますよね。近江商人がすごく多いわけです。新陳代謝が激しいのが都市の特徴ですから当然です。

丸山：京都という魅力的で不思議な町を、矯めつ眇めつ読み解いていって何か知りたいということですね。

伊從：タマネギをむいているようなものです。なかに芯があるのかないのか分からないけれども、重なっているという事実はある。京都はある、しかし皮をむいてみなければわからないということですね。

(2007.12.1　於：思文閣出版)

みやこの近代

丸山 宏・伊從 勉・高木博志 編

▶A5判・260頁／定価2,730円　ISBN978-4-7842-1378-8　【1月上旬刊行】

2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものをまとめる。研究分野の相違を問わず、また、時流の政治や論調に動ずることなく、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようと開かれた「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。図版多数収録。

☆★☆内容目次☆★☆

プロローグ
伊從 勉／高木博志／丸山 宏

まちのインフラ
高久嶺之介／小野芳朗／丸山 宏
伊從 勉／鈴木栄樹／中川 理

まちのイメージと環境
伊從 勉／小椋純一／小野健吉／井原 緑／丸山 宏
玉城玲子／天野太郎／田島達也／藤原 学

まちの建築
登谷伸宏／岸 泰子／日向 進／大場 修
中川 理／石田潤一郎

美術と工芸
並木誠士／村角紀子／芳井敬郎
清水愛子／高階絵里加

なりわいと政治
小林丈広／中川 理／秋元せき／廣庭基介
落合弘樹／原田敬一／山田 誠

まつりと世相
廣瀬千紗子／福井純子／高木博志
小出祐子／長 志珠絵／小野芳朗

京都帝国大学
廣庭基介／西山 伸

みやこの海外
金坂清則／天野太郎／山田邦和
福島栄寿／岡村敬二

エピローグ
伊從 勉／高木博志／丸山 宏

【予告】　近代京都研究(仮)　丸山 宏・伊從 勉・高木博志 編　【5月刊行予定】

京都大学人文科学研究所の共同研究「近代京都研究」の成果。都市・風景・文化・政治・学知の5つのジャンルにわたり、さまざまな分野の研究者が自由闊達に近代京都を読み解いた研究論文21篇。

谷川 穣著

1月下旬刊

明治前期の教育・教化・仏教

近代日本における学校教育制度の定着過程で、宗教は教育といかなる関わりを持ったのか、その結果学校教育の「非宗教」性がどのように醸成されたのか。明治前期を中心に、従来の日本近代史、仏教史、宗教史、教育史といった諸分野がとりこぼしてきた問題の重層性・複雑性を、教化・宗教（仏教）との関係から浮き彫りにする。

【内容目次】

序　章
第一部　教導職と教育―明治初年―
　第一章　教部省教化政策の展開と挫折
　第二章　松本小教院事件
　第三章　筑摩県における「教」の位相
第二部　仏教と教育―明治10～20年代―
　第四章　明治10年代前半の僧侶教員兼務論
　第五章　僧侶養成学校と俗人教育―真宗本願寺派を中心に―
　第六章　僧侶教員兼務論と俗人教育活動の盛衰
終　章／索引（人名・事項）

たにがわ・ゆたか…1973年京都市生まれ．2002年京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修認定退学（日本史学専修）．2003年同人文科学研究所助手，2007年度より助教．博士（文学）．主要論文：「〈奇人〉佐田介石の近代」（『人文学報』84，2002），「周旋・建白・転宗」（明治維新史学会編『明治維新と文化』吉川弘文館，2005）など．

▶A5判・368頁／定価6,090円　ISBN978-4-7842-1386-3

岩倉使節団における宗教問題

山崎渾子著

神道皇国主義を宣言しキリスト教禁制のまま諸国歴訪に出かけることになった岩倉使節団は、その後の明治政府の宗教政策にどのような影響を与えたのか、『米欧回覧実記』を中心とした使節団関係史料を読み込むことで検証する。

▶A5判・250頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1316-3

宣教と受容

中村博武著　　明治期キリスト教の基礎的研究

日本におけるキリスト教の宣教と受容を新資料の検証を通して解明した力作。経典成立史、新造語の成立経緯などの原理的な問題から、浦上信徒総流罪に対する長崎外国人居留地の英字新聞や宣教師の書簡の解明などを通して西洋文明が東アジアに与えた衝撃の一端を明かす。

▶A5判・610頁／定価12,600円　ISBN4-7842-1025-3

長谷川精一著

森有礼における国民的主体の創出

森有礼がその生涯において関わったさまざまな領域における思想や政策の分析から、彼が国民的主体の創出という課題にいかに取り組んだかを解明する。先行研究において十分に検討されてこなかった外国語の史料や文献をも利用し、さまざまな角度から検討を加えた画期的な一書。

【目　次】

第1章 森有礼における国民的主体／第2章 森有礼の外交論／第3章 森有礼の「簡易英語」採用論／第4章 森有礼の歴史観／第5章 森有礼の道徳教育論―『倫理書』における「自他並立」の原理／第6章 森有礼の国家論／第7章 森有礼の天皇観

▶A5判・468頁／定価9,450円　ISBN978-4-7842-1367-2

新島襄を語るシリーズ［既刊４冊］

本井康博著

同志社大学神学部教授のかたわら、同志社大学社史資料センター・アーキビストとして、新島襄関係資料の整理・収集にあたり、「新島ワールド」のコンシェルジェ（案内人）と自他ともに認める著者が、話し言葉でその魅惑的世界を紹介する入門書。　▶四六判／各1,995円

①千里の志
ISBN4-7842-1250-7
②ひとりは大切
ISBN4-7842-1279-5
③錨をあげて
ISBN978-4-7842-1342-9
④敢えて風雪を侵して
ISBN978-4-7842-1375-7

近代新潟におけるプロテスタント

本井康博著

▶B5判・540頁／定価3,150円
ISBN4-7842-1320-1

近代新潟におけるキリスト教教育

最新刊

本井康博著　新潟女学校と北越学館

▶B5判・312頁／定価3,150円
ISBN978-4-7842-1382-5

関西モダニズム再考

竹村民郎・鈴木貞美編

大阪毎日新聞社『西日本現代風景』1931年 表紙

国際日本文化研究センター共同研究「日本のモダニズム―関西を中心にした学際的研究」の報告書。いわゆる「阪神間モダニズム」に京都を加え、また東京中心だった研究に対し、「関西モダニズム」の再評価を試みる。

【1月下旬刊】

Ⅰ 「阪神間モダニズム」の社会的基調 ＊竹村民郎
琵琶湖疎水のモダニティ―初期電気事業における先見性 ＊金子 務
平生釟三郎日記に見る関西のモダニズム ＊松井朔子
前川國男と日本近代建築 ＊松隈 洋
大衆女性雑誌における競合的消費主義 ＊バーバラ・佐藤
Ⅱ 歌人前川佐美雄の場合 ＊高橋睦郎
梶井基次郎「檸檬」に見る大正末・モダン京都 ＊中河督裕
―『京都日出新聞』の紙面から―
大阪におけるカフェ文化と文藝運動 ＊増田周子
―明治末から大正初期を中心として―
関西「マヴォ」について―牧寿雄と「マヴォ」関西支部 ＊五十殿利治
築地小劇場と関西新劇運動 ＊依岡隆児
―ドイツ表現主義からの影響を中心に―
関西モダニズムと西洋体験 画家たちとその周辺 ＊稲賀繁美
―1900-1933年―
橋本関雪とアジア ＊西原大輔
阪神間モダニズムにおける大衆文化の位相 ＊竹村民郎
―宝塚少女歌劇と手塚治虫の漫画に関連して―
Ⅲ モダニズムと伝統、もしくは「近代の超克」とは何か ＊鈴木貞美

▶A5判・600頁／定価8,925円

ISBN 978-4-7842-1379-5

雑誌『大大阪』CD-ROM

大阪都市協会企画発行　大正14年～昭和19年

雑誌『大大阪』の膨大な文章・図版・広告などのすべてをCD-ROM 2枚に完全収録。題名・著者名・刊行年月・分野・キーワードの5検索が可能。

▶定価99,750円 【直販扱】 ※Windows専用

谷崎潤一郎と世紀末

松村昌家編　大手前大学比較文化研究叢書1

海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。さらに、ノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1104-7

日本近代都市史研究

原田敬一著

都市史の視角と方法の提示、及び個別都市・大阪を対象とした論考を収録。

【内容】近代都市史の分析をめぐって／近代都市の成立と構造／近代大阪の史的研究

▶A5判・360頁／定価 8,190円 ISBN4-7842-0953-0

近代日本公園史の研究

丸山 宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたかを探る。

▶A5判・400頁／定価8,820円 ISBN4-7842-0865-8

都市の近代・大阪の20世紀

芝村篤樹著

モダニズムの時代から、戦時、敗戦、戦後の混乱期を経て、高度経済成長期に至る都市のあゆみの中に大阪の個性を見出すと同時に日本の「近代」を検証する。

▶A5判・224頁／定価2,310円 ISBN4-7842-1013-X

祭りのしつらい 町家とまち並み

岩間 香・西岡陽子編／京極寛写真

祇園祭・天神祭をはじめ、城端（富山県）や倉敷・村上（新潟県）・大津・日野（滋賀県）など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。

▶B5判・200頁／定価2,310円 ISBN978-4-7842-1360-3

田中秀隆著　近代茶道の歴史社会学（きんだいちゃどう）　最新刊

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

◆◇◆内容目次◆◇◆

序　章　知識人と茶の湯

第一部　近代茶道の三つの転換期

第一章　明治31年と想像の共同体
第二章　茶道の記号化と昭和４年
第三章　『茶道全集』と利休・芸術・生活
第四章　皇紀2600年の利休

第二部　伝統文化の解釈者たち

第一章　岡倉天心の美術主義的文明論
第二章　岡倉天心のメタ・ナショナリズム
第三章　岡倉天心の日本文化論
第四章　小宮豊隆の茶道受容をめぐって
第五章　柳宗悦と生活

第三部　茶道への理論的アプローチ

第一章　茶の消費史研究序説（消費社会論）
第二章　芸術としての茶と身体（システム論）
第三章　茶道文化継承の外的条件（物産複合論）

終　章　茶道文化論の現代的課題

補　論　歴史社会学の視点

索引（人名・事項・文献）

たなか・ひでたか…1958年東京都生．茶名，仙堂．東京大学文学部社会学科卒業．同大学院博士課程単位取得満期退学．大日本茶道学会副会長．財団法人三徳庵専務理事，徳川美術館非常勤研究員，慶應義塾大学文学部非常勤講師．

▶A5判・456頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1377-1

萬象録【全９巻】　高橋箒庵日記

大濱徹也・熊倉功夫・筒井紘一校訂

「近代茶道鼓吹の第一人者」とされる高橋箒庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記。

▶A5判・平均450頁／既刊揃69,300円

茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

恋は茶道の精神に反する――谷崎潤一郎の随筆の興味深い一節をきっかけに恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探究

▶A5判・232頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1313-9

アーツ・アンド・クラフツと日本

デザイン史フォーラム編（藤田治彦責任編集）

【内容】ウィリアム・モリスと明治の日本／柳宗悦の二つの関心／富本憲吉の小藝術／東京美術学校と日本美術院　他

▶A5判・304頁／定価3,045円　ISBN4-7842-1207-8

逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

園田英弘編著

西洋にあるものが日本にはない「欠如」ではなく、出発点を日本においた「逆欠如論」に基づき生活文化の諸相を分析。

▶A5判・404頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1248-5

織豊期の茶会と政治

竹本千鶴著　〈茶道文化奨励賞受賞図書〉

信長による名物茶器をしつらえた茶会の場を、織田政権における支配構造の一側面として明らかにする。

▶A5判・494頁／定価7,875円　ISBN4-7842-1318-X

茶の湯　連翹抄

戸田勝久著

裏千家の茶家戸田即日庵に生まれ、今日庵業躰三代目教授者として茶の湯の指導と普及にとつとめた著者の集大成。

▶A5判・602頁／定価7,980円　ISBN4-7842-1267-1

柳宗悦と民藝運動

熊倉功夫・吉田憲司編

各世代の研究者がそれぞれの視点・立場から柳宗悦像を論じた、国立民族学博物館で行われた共同研究の成果。

▶A5判・354頁／定価4,830円　ISBN4-7842-1236-1

民芸運動と地域文化

民陶産地の文化地理学

濱田琢司著

民芸運動と焼き物産地との影響関係を考察した文化地理学

▶A5判・320頁／定価5,145円　ISBN4-7842-1288-4

煎茶文化考　文人茶の系譜

大槻幹郎著

中国に生まれ育ち、日本で茶の湯・煎茶道へと高められた茶文化の発展過程を黄檗僧を中心に、茶を愛した文人たちの詩文に読み解く試み。

▶A5判・344頁／定価4,410円　ISBN4-7842-1183-7

公家茶道の研究

谷端昭夫著　〈茶道文化学術賞受賞図書〉

近世における公家茶道を取り上げ、その独自の形態・実態と特徴や位置づけを考察、茶のもつ文化の内実を深める。

▶A5判・394頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1265-5

暁斎』（山口静一訳、岩波文庫版）において、暁斎を狩野派絵師と認め、そのコレクションも本画が多かったが、多くの西欧人は、ベルツ同様、暁斎の席画を好んだ。

成田山の書画会展と京都で初の暁斎展

では、「席画」とは、そして「書画会」とは如何なる催しであっただろうか？

今は忘れられたそれらに関する展覧会「酔うて候―河鍋暁斎と幕末明治の書画会」展が、平成二〇年元旦から成田山書道美術館で開催され、展覧会図録は思文閣出版から出版される。幸い暁斎は多くの席画が現存し、当時の書画会風景図も描き（左図）、「絵日記」や報條など、書画会に関する資料は他の画家とは比較にならないほど残っている。暁斎の席画を見直すと、軽妙洒脱で面白い作品が多く、本画にはないユニークさも見えてくる。書画会展は、席画も含めたマルチな画家として暁斎を見ていただくよい機会になるであろう。平成二〇年一月一日から二月一一日まで開催され、その後、一部は徳島県立文学書道館に巡回する（平成二〇年三月四日～三月二三日まで）。なお、成田では書画会展と同時に新勝寺ご所蔵の奉納額ほか本画を主に展示する「河鍋暁斎展」も、成田山霊光館で開催される。

平成二〇年は、京都国立博物館で暁斎の肉筆画を中心とする大々的な「没後一二〇年記念　河鍋暁斎展」も開催される。こちらは、狩野派絵師という暁斎本来の姿を認めていただく展覧会で、四月八日から五月一二日まで開かれる。東京国立博物館所蔵の優品六点や初公開作品も展示される。暁斎の名は、関西の皆様には馴染みが少ないが、若冲・蕭白展に続く暁斎展としても期待されるので、是非ご覧いただきたい。

書画会展と双方をご覧いただけると暁斎の二面性がよりお解りいただけるだろう。

（河鍋暁斎記念美術館館長）

書画展覧余興之図　河鍋暁斎記念美術館蔵

成田山書道美術館
Tel 0476-24-0774
http://www.naritakanko.jp/naritashodo/

徳島県立文学書道館
Tel 088-625-7485
http://www.bungakushodo.jp/

京都国立博物館
Tel 075-525-2473
http://www.kyohaku.go.jp/

酔うて候　河鍋暁斎と幕末明治の書画会

成田山書道美術館・河鍋暁斎記念美術館　共編　最新刊

幕末から明治前半期にかけて、日本各地で盛んに催された書画会は、会主の呼びかけに書家や画家などの文人が集い、その書画を求める人々の需要を満たす機能を果たしていた。美人画・風俗画・花鳥画、そして戯画・風刺画と幅広いジャンルの作品を残し、激動の時代をエネルギッシュに駆け抜けた奇才・河鍋暁斎（1831-89）が、書画会で席画した作品を中心に構成。即興で描いた作には、暁斎の機知に富んだ豊かな表現を見ることができる。

【内容】

カラー図版73点／モノクロ図版11点
論文　ロバート・キャンベル（東京大学教授）
佐藤道信（東京芸術大学教授）
高橋利郎（成田山書道美術館学芸員）
河鍋楠美（河鍋暁斎記念美術館館長）
加美山史子（河鍋暁斎記念美術館学芸員）

▶A4判・160頁／定価2,100円　ISBN978-4-7842-1383-2

■展覧会のご案内■

酔うて候　河鍋暁斎と幕末明治の書画会
平成20年1月1日（火）～2月11日（月）　会期中無休
9:00-16:00（最終入館は15:30、但し正月三ヶ日については開館閉館とも30分延長）
成田山書道美術館　千葉県成田市成田640（成田山公園内）
Tel:0476－24－0774　http://www.naritakanko.jp/naritashodo/

河鍋暁斎の画業——席画そして本画——

河鍋　楠美

河鍋暁斎

河鍋暁斎（一八三一—一八八九）は、現在の茨城県古河市に生まれ、数え年三歳で初めて蛙を描いた。暁斎の画才を認めた父は七歳で歌川国芳に入門させるが、その後一〇歳で駿河台狩野派の前村洞和に再入門。しかし、洞和の病のため、一一歳の時駿河台狩野家当主・洞白陳信に師事することとなった。暁斎は国芳塾で写生の大切さを教わり、洞白塾では先人の模写ほか様々な画道修業に励み、異例の早さの一九歳にして「洞郁陳之」という画号を得た。従って暁斎の作品には、国芳から学んだ側面と、狩野派絵師としての側面との二面性がある。さらに暁斎は独自に伝統各派の描き方をも学び、技量を身につけていった。

独立した暁斎は、幕末には「狂斎」と号して戯画や風刺画で名を馳せるが、明治三年に筆禍事件で捕らえられ、翌年、画号を「暁斎」と改める。その後、明治一四年には第二回内国勧業博覧会で妙技二等賞牌を受賞し、晩年まで本格的な道釈人物画から美人画・風俗画・花鳥画、そして戯画・風刺画と、幅広いジャンルを描いた。また、幕末から明治前半に流行した書画会では、来客の注文に応じて一日に一〇〇枚、二〇〇枚と席画を描く早描きの名手としても、喝采を浴びた。

暁斎の評価

このように人気の高かった暁斎だが、特に戦後、国内においてその名は埋没していった。一方、生前から現在まで、海外では一貫して評価が高い。その理由には、暁斎の正確なデッサン力とユーモア精神が挙げられる。特に暁斎の席画はユーモア性が高いので大いに喜ばれる。席画はそれに加えて眼の前で作品を描き上げることから、特に明治期に来日した外国人たちは驚嘆した。例えば、暁斎をヨーロッパに最も早く紹介したエミール・ギメ著『日本散歩——東京・日光——』の口絵には、暁斎が早描きした「フェリックス・レガメー像」が選ばれた。一八八〇年のことである。また、後に来日したドイツ人医師エルヴィン・フォン・ベルツも『ベルツ日記』に、暁斎の早描きについて認め、席画を愛蔵しており、西洋人にとって目の前で描き上げられる席画は驚嘆であり、感動的でさえあったようだ。

そのほか、英国人の医師ウィリアム・アンダソンや画家モーティマー・メンピス、チャールス・ワーグマン、フランス人のフランシス・ステナケル、ジョルジュ・ビゴー、イタリア人エドワード・キョーソーネ、米国人ジョン・ラ・ファージほか、暁斎に関心をもった外国人は多く、英国人建築家ジョサイア・コンデル（コンドル）は、暁斎に入門して「暁英」の号を与えられている。彼は『河鍋

バーナード・リーチ再考
スタジオ・ポタリーと陶芸の現代

エドモンド・ドゥ・ヴァール 著
金子賢治 解説・監訳・対談／鈴木禎宏 解説
日英の資料を駆使した「バーナード・リーチ」ほか3篇に解説・対談を加えた。
▶A5判・294頁／定価5,040円　ISBN978-4-7842-1359-7

伝統工芸再考　京のうちそと
過去発掘・現状分析・将来展望

稲賀繁美 編
和服や仏壇が海外で作られる現在、「工藝」の将来を見すえて国際日本文化研究センターで行われた共同研究の報告書。気鋭の美術・工芸・文化・経済・行政の専門家および実作者36名による論考。
▶A5判・880頁／定価13,650円　ISBN978-4-7842-1357-3

中国文人画家の近代
豊子愷の西洋美術受容と日本

西槇偉 著
中国近代を代表する文人・芸術家、豊子愷。彼が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問い、「文化の越境者」の本質に迫る。
▶A5判・384頁／定価5,775円　ISBN4-7842-1230-2

没後220年　蕪村

逸翁美術館・柿衛文庫 編
南画・俳諧・俳画の大成者として輝かしい足跡を残した与謝蕪村（1716-83）。彼の南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点に解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。
▶A4判・210頁／定価2,310円　ISBN4-7842-1162-4

●私のノートから●

吉野林業史研究に寄せる私の思い

谷　彌兵衛

アメリカの日本史研究者である、コンラッド・タットマンはその著『日本人はどのように森をつくってきたのか』（熊崎実訳、築地書館）の末尾を「二〇世紀の日本が貧困に打ちのめされた農民社会ではなく、豊かな緑の列島として生きのびることができたのは、この移行があったからである」と結んでいる。移行とは採取的林業から育成的林業への移行である。多くの林業史研究はこの移行を考察対象にしている。

育成的林業が始まるのは一七世紀から一八世紀である。とくに一七世紀は大開墾と人口爆発とによる経済発展の世紀であるといわれる（速水融・宮本又郎編「概説　一七―一八世紀」、『日本経済史』1、岩波書店、一九八八年）。産業革命以前は、住宅はもちろんエネルギー資源や土木建設資材のほとんどが木材でまかなわれたから、木材需要は巨大であった。それが育成的林業への移行のインセンティブになった。もし森林を自然更新にまかせ、採取的林業を続けていたら、日本の国土はとっくの昔に荒廃していたにちがいない。育成的林業が二〇世紀の日本を救ったのである。

畿内市場に近接する吉野が木材の供給地になるのはごく自然なことであった。近世初頭に吉野でどのようにして育成的林業が始まり発展したのか、地方史料にもとづいてこれを解明した研究はない。先進的民間林業ともてはやされ、多くの研究蓄積がありながら、通史がないのである。もちろん、部分的にとりあげた研究はあるし、すぐれた基礎的な研究は数多くあるが、だれも通史を書かなかった。拙著『近世吉野林業史』は恥ずかしながら最初の通史である。

私は、近世の吉野林業は零細な百姓によっておこなわれていたと考えており、小農型林業と名付けた。林業は木材を生産する産業であるから、育林と伐り出しは連続したものであり、林業史研究はこの両過程を対象としなければならない。吉野の零細な百姓は山に木を植えるだけでなく、それを伐り出して和歌山・大坂市場まで安全に輸送するシステムを構築した。そのなかには、他地域の材木商人の参入を排除する等の封建的規制があった。かつてはそれを自由な取引の障害物として否定的に見たが、私は、それらは零細な地元の商人を擁護するものとして積極的に評価している。また山元の材木商人は都市の問屋・仲買など前期的資本に従属していたと先験的に判断されたが、私は吉野の山林所有者も材木商人も体制的な従属はなかったと考えている。

最近、森林にたいする国民の関心が高まっているが、林業にたいする関心は低くなっているように思える。森林と林業が切り離されているのである。「林業基本法」が「森林・林業基本法」となったことも影響しているのであろう。森林と林業は一体であって、切り離せるものではない。

森林の約半分が人工林であり、民有林ではそのまた半分が杉・檜の森林である。人工林は手入れをしなければ育たないし、環境の保全にも国民の保健にも役立たない。林業あっての人工林である。私は『近世吉野林業史』を、研究者や林業関係者だけでなく、市民のみなさんにも読んでいただき、林業への関心と理解を深めてほしいと願っている。

たに・やへえ
1934年奈良県吉野郡小川村（現東吉野村）生まれ．同志社大学経済学部卒業後，奈良県下の中学校教員となる．1995年定年退職後，大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程進学．1998年同課程修了．「吉野材木業史試論」（『林業経済研究』47巻2号）「近世吉野地方の材木生産の発展」（『徳川林政史研究所研究紀要』36号）ほか共著・論文多数．

（16頁に図書案内）

『源氏物語』が成立して二十年ばかりの後の菅原孝標女の『更級日記』には、「をばなる人」から箱入りの揃い本をもらうと、もう夢中になって読みふけり、夜なども目の覚めている限り物語の世界に没頭し、ついには諳んじるほどになったという。その年十四歳というのだから驚きで、それだけことばや文化の障壁もなく、現代文学として少女の年齢層にも受け入れられていたことが知られる。『源氏物語』は、貴族階級から、受領層にも急速に読者の数をふやしていったはずで、その影響として『夜の寝覚』とか『浜松中納言物語』が生まれ、鎌倉期にいたっては藤原定家が『松浦宮物語』を作ったのも、紫式部の作品の大きさを思わせる。

光源氏と数多くの女性たちとの恋、その果てが密通という事件、儒教的な思想からすれば不道徳な内容と指弾する意見も出されながら、それでも人々は捨て去ることをしなかった。よく知られているように、藤原俊成は『六百番歌合』において、「源氏見ざる歌詠みは遺恨のことなり」と喝破し、歌人にとっては必読の書であると主張する。日野富子（第八代将軍足利義政室）は一条兼良から『源氏物語』の講釈を受け、女人政治の正当性を確認するといった、政治テキストとしての利用もする。あるいは「なによりも人のふるまひ、心のよしあしのたたずまひを教へたるものなり」（斯波義将『竹馬抄』）と、儒教道徳の本としての用い方も推奨されていた。

そのように称賛されたところで、大半の人々には、年月の隔たりとともに『源氏物語』は遠い存在となり、孝標女のようにひたすら物語に夢中になることなど望めるはずがない。作品と読者との間に溝が生じ、それは時代を経るにしたがい大きな裂け目に成長し、とても飛び越えることなどできなくなる。その空隙を埋めるか、橋でも架けない限り、対象は十全に理解できなく、自作の和歌に取り込むとか、人の道の教えに用い、政治への指針にすることなどありえなくなってしまう。

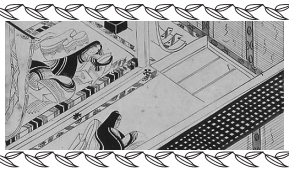
そこに注釈が派生するのだが、『源氏物語』が読むに値しない作品であれば、そのように努力をしてまで読もうとする者はいないはずである。ところがそうではなく、苦労してまで読もうとする需要層が多いだけに、さまざまに工夫を凝らした注釈作業が院政期以降、営々と続くことになっていくのである。南北朝、室町と注釈書の内容は過去の説を継承しながら数を重ね、肥大化し、さらに漢籍、仏典までが引用されるとなると、注釈そのものの理解が困難になり、本体の作品を読もうとしてもなかなかたどりつけなくなってしまう。花屋玉栄などは、「注釈の注釈」が必要であると慨嘆し、自ら一般読者向けにとダイジェスト版を作成した。

こういう注釈の世界に大きな転換を果たしたのが江戸初期の北村季吟による『湖月抄』である。

（つづく）

源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第二回〉

営々と続く注釈作業



伊井春樹
（国文学研究資料館館長）

伊井春樹（いい　はるき）
国文学研究資料館館長．大阪大学名誉教授．著書『源氏物語注釈史の研究』『成尋阿闍梨母集全釈、私家集全釈叢書17』『源氏物語注釈書・享受史事典』『物語の展開と和歌資料』『ゴードン・スミスが見た明治の日本』など．

千年前の源氏物語の世界を歩くための探訪ガイド

京都源氏物語地図

社団法人紫式部顕彰会 編纂／角田文衛 監修／加納重文 編集責任　最新刊

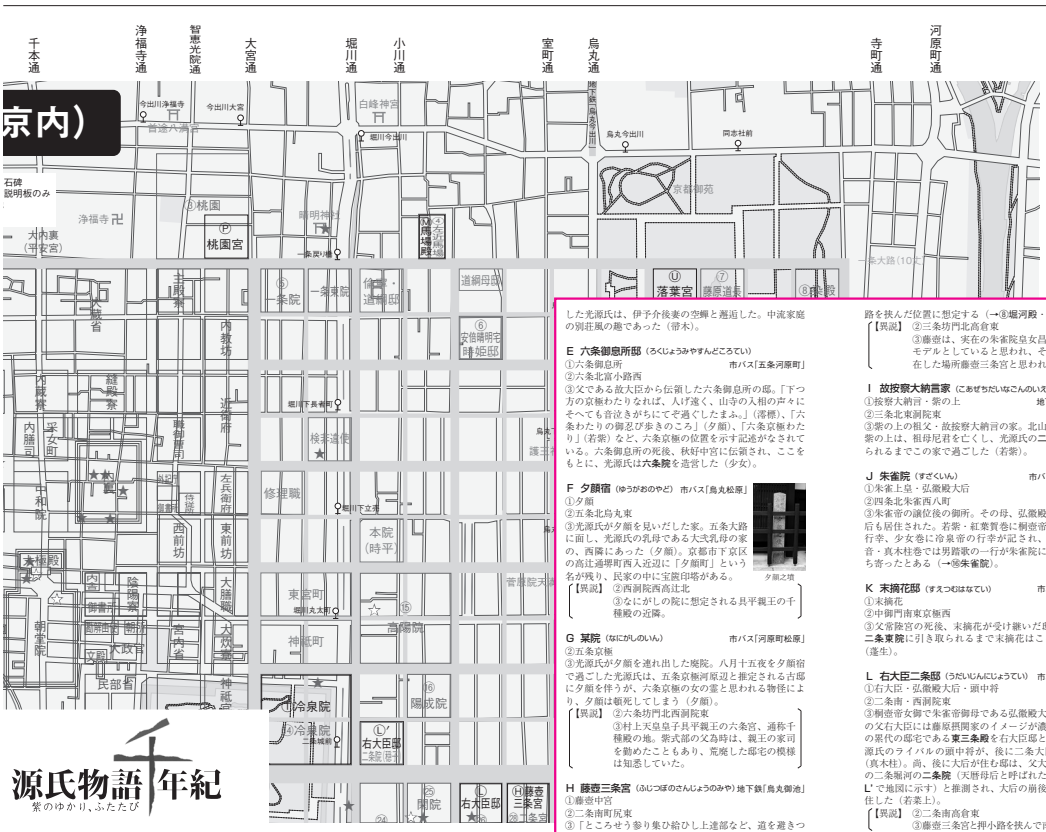
現在の地図に平安京復元条坊を重ね、源氏物語ゆかりの邸宅などを配置。
散策に最適なハンディタイプの地図１枚に、案内をかねた小冊子つき。

定価840円（送料：3冊まで150円、4冊以上は通常の小社規定によります）

ISBN978-4-7842-1372-6

▶地図：A2判（594㎜×420㎜）1枚（表・平安京内地図　裏・京外地図）　解説・アクセスガイド冊子：105㎜×297㎜／32頁

◉地図見本（50%縮小）◉



源氏物語千年紀
紫のゆかり、ふたたび

した光源氏は、伊予介後妻の空蟬と邂逅した。中流家庭の別荘風の趣であった（帚木）。

E 六条御息所邸（ろくじょうみやすんどころてい）
①六条御息所　市バス「五条河原町」
②六条北富小路西
③父である故大臣から伝領した六条御息所の邸。「下つ方の京極わたりなれば、人げ遠く、山寺の入相の声々にそへても音泣きがちにてぞ過ぐしたまふ。」（澪標）、「六条わたりの御忍び歩きのころ」（夕顔）、「六条京極わたり」（若紫）など、六条京極の位置を示す記述がなされている。六条御息所の死後、秋好中宮に伝領され、ここをもとに、光源氏は**六条院**を造営した（少女）。

F 夕顔宿（ゆうがおのやど）　市バス「烏丸松原」
①夕顔
②五条北烏丸東
③光源氏が夕顔を見いだした家。五条大路に面し、光源氏の乳母である大弐乳母の家の、西隣にあった（夕顔）。京都市下京区の高辻通堺町西入近辺に「夕顔町」という名が残り、民家の中に宝篋印塔がある。

夕顔之墳

【異説】②西洞院西高辻北
③なにがしの院に想定される具平親王の千種殿の近隣。

G 某院（なにがしのいん）　市バス「河原町松原」
②五条京極
③光源氏が夕顔を連れ出した廃院。八月十五夜を夕顔宿で過ごした光源氏は、五条京極河原辺と推定される古邸に夕顔を伴うが、六条京極の女の霊と思われる物怪により、夕顔は頓死してしまう（夕顔）。

【異説】②六条坊門北西洞院東
③村上天皇皇子具平親王の六条宮、通称千種殿の地。紫式部の父為時は、親王の家司を勤めたこともあり、荒廃した邸宅の模様は知悉していた。

H 藤壺三条宮（ふじつぼのさんじょうのみや）地下鉄「烏丸御池」
①藤壺中宮
②二条南町尻東
③「ところせう参り集ひ給ひし上達部など、道を避きつつひきすぐて、向かひの大い殿に集ひ給ふ」（賢木）とあるように、**右大臣邸**の向かいに所在。藤原氏伝来の邸宅・**堀河殿**とすると、幅50丈以上の大路が上記表現に合わず、ふさわしくない。摂関家伝来の**東三条殿**と町尻小路を挟んだ位置に想定する（→⑧堀河殿・㉙東三条殿）。

【異説】②三条坊門北高倉東
③藤壺は、実在の朱雀院皇女昌子内親王をモデルとしていると思われ、その御所が所在した場所藤壺三条宮と思われる。

I 故按察大納言家（こあぜちだいなごんのいえ）
①按察大納言・紫の上　地下鉄「烏丸御池」
②三条北東洞院東
③紫の上の祖父・故按察大納言の家。北山から帰京した紫の上は、祖母尼君を亡くし、光源氏の**二条院**に引き取られるまでこの家で過ごした（若紫）。

J 朱雀院（すざくいん）　市バス「四条中新道」
①朱雀上皇・弘徽殿大后
②四条北朱雀西八町
③朱雀帝の譲位後の御所。その母、弘徽殿大后も居住された。若紫・紅葉賀巻に桐壺帝の行幸、少女巻に冷泉帝の行幸が記され、初音・真木柱巻では男踏歌の一行が朱雀院に立ち寄ったとある（→⑩**朱雀院**）。

朱雀院跡

K 末摘花邸（すえつむはなてい）　市バス「裁判所前」
①末摘花
②中御門南東京極西
③父常陸宮の死後、末摘花が受け継いだ邸（末摘花）。**二条東院**に引き取られるまで末摘花はここで暮らした（蓬生）。

L 右大臣二条邸（うだいじんにじょうてい）　市バス「二条駅前」
①右大臣・弘徽殿大后・頭中将
②二条南・西洞院東
③桐壺帝女御で朱雀帝御母である弘徽殿大后の里邸。その父右大臣には藤原摂関家のイメージが濃厚なので、その累代の邸宅である**東三条殿**を右大臣邸と想定する。光源氏のライバルの頭中将が、後に二条大臣と呼ばれた（真木柱）。尚、後に大后が住む邸は、父大臣邸とは別所の二条堀河の**二条院**（天暦母后と呼ばれた穏子の御所…L′で地図に示す）と推測され、大后の崩後は臥月夜が居住した（若菜上）。

【異説】②二条南高倉東
③藤壺三条宮と押小路を挟んで南北に隣接。

M 馬場殿（ばばのおとど）　市バス「一条戻り橋」
②一条北西洞院西
③左右近衛府の殿屋。一条大路は、賀茂祭（葵祭）見物

解説・アクセスガイド冊子組見本（40%縮小）

山中　裕 編　**御堂関白記全註釈**（第2期 全8冊）

藤原道長の日記「御堂関白記」は一級の日記史料で、平安朝研究には不可欠のものである。本注釈は、京都と東京における研究会の成果を盛り込み、原文・読み下しと詳細な注によって構成。日記研究の基本文献としての体裁を整えている。

［既刊］
第1回　長和4年　290頁／6,300円（ISBN4-7842-1158-6）
第2回　寛弘3年　218頁／5,775円（ISBN4-7842-1214-0）
第3回　寛弘7年　220頁／5,775円（ISBN4-7842-1260-4）
第4回　寛弘4年　220頁／5,775円（ISBN4-7842-1302-3）
第5回　寛弘8年　258頁／6,825円（ISBN978-4-7842-1350-4）

最新刊
第6回 寛弘5年 180頁／5,250円（ISBN978-4-7842-1374-0）

［以後続刊］
第7回 長和5年／第8回 長徳4年～長保2年

水谷幸正著 仏教思想と浄土教 2刷出来

第1篇　仏教思想研究
大乗涅槃教典群にあらわれたる危機思想
仏教における危機意識の一考察
『涅槃経』の成立史的問題
『六巻泥経』について
「ギュ・シ」によるチベット医学の綱格 ほか

第2篇　如来蔵思想と浄土教研究
如来蔵思想史研究序説
如来蔵と仏性
Dhātu と Gotra
如来蔵と信
自性清浄心・発菩提心・度衆生心・発願心 ほか

第3篇　浄土教思想研究
浄仏国土思想について
阿弥陀仏報身論
無量寿仏と無量光仏
機根名義攷

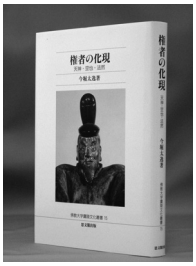
第4篇　導空二祖の浄土教研究
唐善導の至誠心について
発菩提心と廻向発願心
仏教思想よりみた導空二祖の浄土教
中国仏教思想史上における善導浄土教
仏教における信と善導の三心釈
中国仏教の展開と浄土教思想 ほか

みずたに・こうしょう……龍谷大学文学研究科仏教学専攻修了．佛教大学名誉教授．文学博士．

▶A5判・728頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0989-1

権者の化現 天神・空也・法然

佛教大学鷹陵文化叢書15
今堀太逸著



日本人の信仰としての日本仏教の特質を検討するのに「災害と仏教」という視点で迫った第1部日本国の災害と天神をはじめ、六波羅蜜寺の信仰と空也・浄土教の布教と法然伝の3部構成で、仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。

▶46判・312頁／定価2,415円　ISBN4-7842-1321-X

法然絵伝を読む

佛教大学鷹陵文化叢書12
中井真孝著

国宝『法然上人行状絵図』（知恩院蔵）から、その生涯のトピックスとなる事項の記事を選び、読み下し・現代語訳と解説を付し、あわせて他本との比較も行う。法然伝研究の第一人者が描く“絵伝に読む法然像”。口絵カラー4頁・挿図45点。

▶46判・234頁／定価1,890円　ISBN4-7842-1235-3

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院と興福寺一乗院坊官二条家に伝来した文書の3年間に渡る調査・研究の成果をまとめた一書。東大寺・興福寺を中心とした南都寺院の寺領やネットワークに関する研究をこれらの史料をもとに展開する。

▶A5判・340頁／定価6,090円　ISBN978-4-7842-1369-6

相国寺蔵西笑和尚文案 自慶長二年 至慶長十二年

伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編

豊臣秀吉・徳川家康のブレーンとして、寺社政策・外交政策に辣腕を発揮した相国寺中興の祖・西笑承兌の発給した書状の案文をまとめた『西笑和尚文案』全10冊を、紙背文書も含め初めて活字化。

▶A5判・392頁／定価7,350円　ISBN978-4-7842-1343-6

関山慧玄と初期妙心寺

加藤正俊著

妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくんだ一書。

▶A5判・390頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1281-7

中国近世における国家と禅宗

西尾賢隆著

中国の4回にわたる廃仏のなかでも最大の「会昌の廃仏」を円仁の『入唐求法巡礼行記』等にみるほか、異国の宗教を理解・受容するために編まれた「偽経・語録」、「僧制・清規」へと発展する戒律の受容などを検証。

▶A5判・370頁／定価7,875円　ISBN4-7842-1289-2

造像量度経（全2冊）

五島正風訳／逸見梅栄解説

清朝乾隆年間にチベット語から工布査布が漢訳した伝説造像量度経に関する一連の経典を、昭和8年に和訳して書かれたもの影印本であり、古代から近世までの仏像の形式発展の歴史を考える上で重要な参考資料。

▶B5判・和装秩入／定価12,600円　ISBN4-7842-0114-9

行道佛教学

釘宮武雄著

説教者の側からでなく求道者の側に立ち、仏教諸宗の基盤にある「教相判釈」を手がかりに、あらゆる仏教の本質が、この自分自身を見つめる「実践的真理性」とも呼んでいる行道にあることを明らかにしていく。

▶菊判・416頁／定価5,775円　ISBN4-7842-0116-5

史料探訪 31

明治期の教育関係資料

武庫川女子大学非常勤講師・同大学資料館臨時職員
古野　貢

武庫川女子大学資料館では、大学教育に資するため、とくに近世・近代の生活文化や民具資料に重点をおいて収集し、調査・研究をすすめています。現在、およそ4000件程度の資料を収蔵しています。この度、資料収集の過程で、明治期の淡路島の教育関係資料を購入する機会を得ました。この資料は、特に本学文学部教育学科における教育・研究活動に資するものでもあり、以下、その一部をご紹介します。

平成17年（2005）度、淡路島南部地域における、江戸時代末から明治・大正期にかけてのさまざまな内容を含む資料を、本学資料館資料として購入しました。1000点近い文書が含まれています。調査の結果、明治初め頃の名東県（みょうどうけん）内の小学校にかかわる資料が多く含まれていることが明らかになりました。

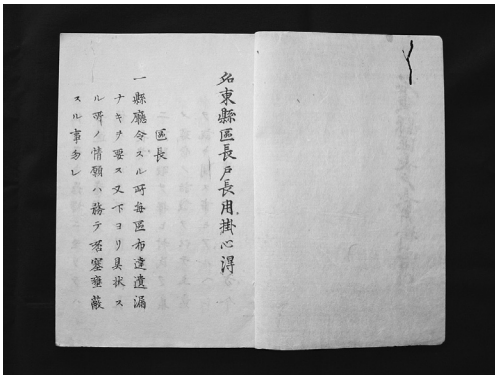
名東県とは、明治4年（1871）の廃藩置県の実施により、徳島県（阿波国、淡路国三原郡）と淡路国津名郡とが合併して新設された県です。名東県は、明治6年に香川県を編入しますが、香川県は明治8年に名東県から分立。翌明治9年、名東県の阿波国部分が高知県に、淡路島部分が兵庫県に編入され、名東県はわずか5年で廃止されます。

さて「名東県区長戸長用掛心得」（写真①）は、名東県が存在した明治4年から9年までの間に、県内区長と戸長に宛てた役職心得です。区長・戸長の地域内での役割・権限について記してあります。区長や戸長は地域の名士・有力者が任命されることが多く、名東県当時の戸長は、のちに国会議員にもなる濱田儀一郎でした。

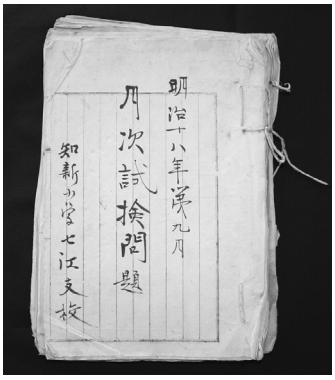
教育関係資料には残念ながら名東県当時のものは含まれていませんが、兵庫県になって以降、小学校で用いられていたさまざまな資料を見出すことができます。明治18年の「月次試験問題」（写真②）は、小学校の支校で実際に出された試験問題の控えです。修身・書取・作文・算術・習字などの試験問題と解答が記されています。たとえば初等科三級の修身では、「人身ハ至ツテ貴重、如何ナル心ヲ除クトキハ可ナルヤ」という問題に対し、「欲心」との解答が期待されています。

また、「職員勤務表綴」（写真③）は、明治27年の尋常小学校のもの。月ごとの訓導（教諭）の勤務状況を記録してあります。それによると、各訓導は病気によってほぼ毎月1～3日欠勤しています。休日が週1日であったことを差し引いても欠勤は多く、当時の社会状況や生活環境を想像させます。このほかにも、訓導が用いた「教育日誌」が、学年・年度ごとに残っており、書取や作文、算術などの教科について、その日何を教授したのかが詳細に記録されています。

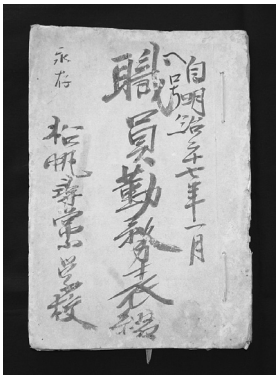
今回ご紹介した本学資料館蔵の教育関係資料には、明治政府（太政官）から布告された名東県内の学区委員の任命書をはじめ、小学校の教育日誌や試験問題、教員の諸届の綴りなど、興味深い資料が含まれています。「職員勤務表綴」や「教育日誌」などの表紙に、朱文字で「永年」とあるのは、このような公式文書は廃棄したり譲ったりするものではなく、公的機関



写真①「名東県区長戸長用掛心得」



写真②「月次試験問題」



写真③「職員勤務表綴」

写真④　武庫川女子大学資料館（公江記念館）

に永久保存される性格のものであることを示しています。教科書や卒業証書といった、卒業生の持ち物ではない学校や役所が保管していたものが、何らかの理由で流出したのが、これらの資料であると考えられます。

近代社会の幕開けとともに重視された教育政策は、明治5年の学制発布にはじまります。明治12年に学制を廃して教育令を制定し、翌明治13年にさらに改正されます。この改正教育令は、明治18年の内閣制度制定と並行して再度改正されたのち、明治23年の教育勅語の発布へとつながっていきます。

本学資料館所蔵の近代教育資料は、淡路島南部地域における、明治初期の教育政策に基づく教育現場の実態を示す興味深く貴重な資料です。文学部教育学科院生による研究も進められており、今後、明治初期における各地の教育制度の実態解明を目指す上で、重要な研究素材になると考えられます。

—MEMO—

武庫川女子大学資料館

〒663-8558 西宮市池開町6-46
（武庫川女子大学中央キャンパス内公江記念館2階）
TEL/FAX（0798）45-3509
URL http://www.mukogawa-u.ac.jp/

平成6年（1994）設置。収集資料は、近世・近代の生活文化資料や絵画等の美術品。年数回の展示会を行う。過去の展示会は、版木展、蔵書票展、近代黎明期の教育展、短冊展、学芸員資格科目受講生による展示など。

アクセス：阪神電鉄　鳴尾駅（武庫川女子大前）より東へ徒歩7分、武庫川駅より西へ徒歩10分
J　R　甲子園口より阪神バスで15分（阪神鳴尾経由）武庫川学院前下車

畿内の豪農経営と地域社会

1月
下旬刊

渡辺尚志（一橋大学大学院教授）編

近世の大阪府藤井寺市一帯は、背後に巨大都市大坂を控えた先進地帯であった。18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、１万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

［内容］

序章（渡辺尚志）／1. 近世後期における河内の諸相（常松隆嗣）／2. 一八世紀畿内における豪農の成長過程――河内国丹南郡岡村岡田家を素材として――（小酒井大悟）／3. 享和～弘化年間における岡田家の地主経営（小田真裕）／4. 幕末期岡田家の地主小作関係と村落（小松賢司）／5. 近世後期の畿内における豪農金融の展開と地域（福澤徹三）／6. 幕末岡田家の大井村小作地支配について（天野彩）／7. 大坂鈴木町代官支配の構造と惣代参会――岡田家の政治的活動――（野本禎司）／8. 丹南郡七か村の年貢米廻送――機構・担い手の変化を中心に――（荒武賢一朗）／9. 近代における岡田家の金融活動――畿内の無担保貸付への私的所有権確立の影響――（福澤徹三）／終章（渡辺尚志）

▶A5判・510頁／定価8,190円　ISBN978-4-7842-1385-6

近世吉野林業史

最新刊

谷彌兵衛著

いま日本の林業は存亡の危機に直面している。吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業の光と影を、史料に基づいて実証的に明らかにする。吉野林業を初めて通史的にとりあげた、画期的研究。

［内容］

序章　近世吉野林業史研究の視点
補論１　借地林業概 念とそのイデオロギー的役割
第Ⅰ部　吉野林業発展史
第１章　吉野地方における育成林業の開始
第２章　小農型林業 の生成
第３章　小農型林業の発展
第４章　小農型林業の変質
補論２　土倉家山林関係文書の実証的研究
第Ⅱ部　吉野林業の担い手
第５章　小農型林業と材木商人
第６章　小農型林業と材木組合
索引（地名・事項）

（たに・やへえ）1934年いまの奈良県吉野郡東吉野村生まれ．定年退職後，大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程進学，1998年同課程修了．

▶A5判・550頁／定価9,765円
ISBN978-4-7842-1384-9

住友史料叢書

小葉田淳・朝尾直弘監修／住友史料館編

住友家に伝わる１万数千点にのぼる近世鉱業史料のうち、重要で継続する記録類を中心に編纂。年１回継続刊行中。

【第4期内容】年々諸用留八番／別子銅山公用帳七番／銅座方要用控一／別子銅山公用帳八番・九番／銅座方要用控二

《最新刊》第22回配本　年々諸用留九番ほか

▶A5判・平均400頁／既刊全22冊・揃定価212,100円

近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著　［佛教大学研究叢書］

近世社会において零細な高持百姓はいかにして自らの生活や農耕の日常を凌いでいたのか。近世社会における「百姓成立」について、領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組編成、質入の検討により解明。

▶A5判・310頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1340-5

瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著　［思文閣史学叢書］

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。

▶A5判・396頁／定価7,560円　ISBN978-4-7842-1333-7

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

日本の近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、産業技術史を俯瞰する。「日本の近代」の理解において不可欠でありながら、従来必ずしも系統的・組織的に実施されてこなかった日本の産業技術史研究の集大成。

［大項目紹介］

総説　日本産業技術・維新から1980年代まで／道具（生活道具や工芸関連道具を中心に）／機械素材（木材と土石）／素材（鉄）／素材（化学）／産銅業／石炭産業／動力と動力システム／鉄道と船／航空機と自動車／情報・通信／生産技術／農業・林業・漁業／食品加工業／繊維と衣服／耐久消費財産業／建築とデザイン／環境技術／学協会と技術者集団／技術者教育／研究開発機関／1980年代以降の産業技術

▶B5判・550頁／定価12,600円
ISBN978-4-7842-1345-0

続 洪庵・適塾の研究

梅溪昇著 【1月刊】

適塾研究第一人者による研究成果の続篇。折りに触れて書き継がれていた論稿と雑誌『適塾』に掲載された史料紹介などをまとめる。

《内容》

第一部　大阪近代医学の源流／近代医学と適塾／「適塾と大阪」／洪庵夫人八重の話／藤野神三恒郎先生の弔事「富士先生を偲んで」について　ほか

第二部　『洪庵／適塾の研究』補遺四題／藤野家文書・蘭学者関係書翰の紹介／長崎修行中の緒方洪庵(のち惟準)にあてた母八重の手紙(二通)　ほか

第三部　クリストフ・ヴィルヘルム・フーフェラントー／適塾門下生、のち和歌山藩兵学寮教授 山口良哉(のち良蔵)の二つの訳行をめぐって　ほか

▶A5判・700頁／定価9,975円　ISBN978-4-7842-1388-7

洪庵・適塾の研究

洪庵と両親の画像、夫人八重の生涯、適塾解体修理、洪庵と福沢諭吉・大隈言道などとの交流のほか新史料の紹介 織りまぜ、適塾研究の第一人者が洪庵と適塾をめぐって縦横にとりくんだ一書。口絵（カラー1頁・モノクロ7頁）に人名索引を併載。

▶A5判・540頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0766-X

緒方洪庵と適塾生

「日間瑣事備忘」にみえる

激動の変革期に生きた二雄―洪庵と広瀬旭荘。本書は、25年にわたる2人の親交を旭荘の日記「日間瑣事備忘」を通して明かす異色作。時代の波動に揺れる幕末の大坂を背景に、適塾門下生らの多彩な人物交流と動静の新たな一面が発掘される書き下し。

▶46判・240頁／定価2,625円　ISBN4-7842-0425-3

うめたに・のぼる…1921年兵庫県生．京都帝国大学文学部史学科卒．大阪大学名誉教授．

大阪府の教育史　都道府県教育史シリーズ19

梅溪昇著

特色ある教育･文化を紹介し、寺子屋･郷学校･私塾･藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。

▶46判・448頁／定価2,940円　ISBN4-7842-0955-7

東アジアの本草と博物学の世界

山田慶兒編 【好評増刷・全２冊】

東の本草学と西の博物学は日本で遭遇する。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響をも含め、多角的に考察した21篇。

▶上巻　A5判・364頁／定価7,875円　ISBN4-7842-0883-6
　下巻　A5判・376頁／定価7,875円　ISBN4-7842-0885-2

日本梅毒史の研究　医療・福祉・国家

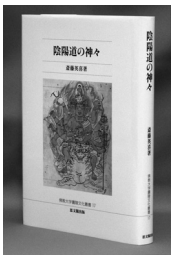
福田眞人・鈴木則子編

ペニシリンの出現で「過去の病」のイメージすらある梅毒だがいまなぜ梅毒か―。専門領域を異にする研究者が行なった共同研究の成果９篇を収める。

▶A5判・392頁／定価7,350円　ISBN4-7842-1247-7

陰陽道の神々　佛教大学鷹陵文化叢書⑰

斎藤英喜著



疫鬼や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を、最新の研究成果にもとづき、もうひとつの「日本」の神々の世界を探求していく。　掲載写真・図版多数

▶46判・292頁／定価2,415円　ISBN978-4-7842-1366-5

近世地域教育史の研究

木村政伸著

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。

【内容】唐津藩における私塾教育の展開／浮羽地域における教育構造の変容

▶A5判・290頁／定価5,985円　ISBN4-7842-1274-4

文学に見る痘瘡

川村純一著

平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

▶A5判・300頁／定価5,250円　ISBN4-7842-1323-6

東大医学部初代綜理池田謙斎

池田文書の研究 【全２冊】

池田文書研究会編

東大中枢部・陸軍軍医部・同僚侍医、また患者としての各宮家や華族・高級官僚などによる謙斎（1841～1918）宛書簡など、約4000通の文書を収録

▶上巻　A5判・350頁／定価7,140円　ISBN4-7842-1284-1
　下巻　A5判・414頁／定価8,190円
ISBN978-4-7842-1337-5

近世寺社参詣の研究

原淳一郎著

人はなぜお参りするのか――古は貴く人たちの熊野詣でから寺社参詣は日本人の信仰心をあらわす一つの姿であった。本書は「寺社参詣」という行動様式そのものを対象の根本にすえて、江戸時代隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりを思想的・文化的立場から位置付ける。

▶A5判・412頁／定価6,615円　ISBN978-4-7842-1363-4

公家と武家Ⅳ　官僚制と封建制の比較文明史的考察

笠谷和比古編　【1月刊】

国際日本文化研究センターで行われている公家と武家に焦点を合わせた共同研究シリーズ最終回。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。その歴史的な意味を多角的に検討。

前近代社会における官僚制と
　封建制の歴史的意義（笠谷和比古）

【日本】
律令官僚制と貨幣経済　（平山朝治）
制度の〈ウチ〉と〈ソト〉（深沢　徹）
曽我物語にみる源頼朝の王権確立を
めぐる象徴表現について　（會田　実）
日本中世における文人政治と武人政治
（上横手雅敬）
孝養から見た鎌倉時代の家族
（辻垣晃一）
五山禅僧の「文官」的性格（原田正俊）
武士領主制の展開における国郡の
枠組みと国役制度の意義（笠谷和比古）
諫言の禁制日本思想史　（前田　勉）
武家官僚制の一視角　（谷口　昭）
『川路聖謨遺書』と『東照宮御遺訓』
（竹村英二）

【東アジア】
高麗末・朝鮮初期の私兵と
　文・武官制の史的意義（平木　實）
西晋における諸王の封建と出鎮
（辻　正博）
科挙一瞥　（池田　温）
明朝官制の品級構造　（谷井俊仁）
清朝末期における
　湖南省の湘郷の曽氏一族（孫　承）

【中東・西欧】
イスラームの騎士と官僚（佐藤次高）
元首政期ローマ帝国における
　東部出身元老院議員の台頭と
ギリシア本土（桑山由文）
15世紀フィレンツェの領域支配と
支配権の理念（徳橋　曜）
ヨーロッパにおける主従関係と
住民把握の論理（村山　聡）
9～12世紀フランスにおける王権、
権門、助言による統治（イヴ・サシエ）
エドワード一世期司法官僚
　ロウジャ・オヴ・レスタの経歴と
国王の立法活動（朝治啓三）

▶A5判・520頁／定価8,925円　ISBN978-4-7842-1389-4

----既刊----

公家と武家　その比較文明史的考察

村井康彦編

▶A5判・444頁／定価8,190円　ISBN4-7842-0891-7

国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史

笠谷和比古編

▶A5判・490頁／定価8,400円　ISBN4-7842-1256-6

公家と武家Ⅱ　「家」の比較文明史的考察

笠谷和比古編

▶A5判・530頁／定価9,870円　ISBN4-7842-1019-9

公家と武家Ⅲ　王権と儀礼の比較文明史的考察

笠谷和比古編

▶A5判・458頁／定価8,190円　ISBN4-7842-1322-8

中世蹴鞠史の研究　【1月刊】

稲垣弘明著　鞠会を中心に

これまであまり顧みられることがなかった、室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史、とくに、応仁・文明の大乱を契機とした15世紀末における蹴鞠会の様式の変容について、体系的に論じる。

《内容目次》

第１章　平安～南北朝期の蹴鞠　―晴の蹴鞠会の系譜―
第２章　室町期の蹴鞠　―天皇・室町殿臨席の晴会―
第３章　戦国期初頭の蹴鞠
―応仁・文明～明応期の蹴鞠会―
第４章　戦国期中葉の蹴鞠
―永正・天文期の蹴鞠会とその様式―
第５章　蹴鞠家元制度成立史論 ―蹴鞠遊芸化の前提―

▶A5判・294頁／定価5,775円　ISBN978-4-7842-1390-0

いながき・ひろあき…1967年東京都生まれ．筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得．裏千家北山会館企画室などの勤務を経て、2008年４月より、松江市歴史資料館整備室学芸員．

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

踏まえる、拓く――若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来

▶A5判・408頁／定価4,830円
ISBN978-4-7842-1371-9

系譜伝承論　佐々木六角氏系図の研究

佐々木哲著

歴史学の進展は常識を疑うことからはじまる――。これまで、作為や錯誤が多いことから歴史資料として正当な評価を受けてこなかった系図について、作為や錯誤を隠喩ととらえるという斬新な手法で、資料としての可能性を示す。

▶46判・360頁／定価3,990円
ISBN978-4-7842-1370-2

安房妙本寺日我一代記

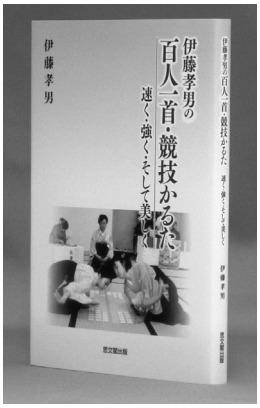
佐藤博信著

妙本寺は、宗祖日蓮の本弟子の一人・日興の孫弟子日郷を寺祖とする豊かな歴史と伝統、由緒を持つ寺院である。本書では、その歴代住職のなかで、戦国時代の一宗教者として際だった足跡を残した日我の一代記を年代記風に記述し、日我の実像に迫る。

▶46判・212頁／定価3,150円
ISBN978-4-7842-1373-3

伊藤孝男の 百人一首・競技かるた

伊藤孝男著　速く・強く・そして美しく



「音は聴くよりつかむべし」といった競技かるたの奥義や、初心者のためのアドバイス・用語集、名人・クィーンをはじめその道の達人との対談・人物紹介、かるた・古典文化をめぐるエッセイなどを収録。百人一首・競技かるたの世界を身近に感じることのできる一冊。

［内容目次］

序 競技かるたの行方／壱 競技かるたを極めるために敗者が語る奥義／弐 初心者のための15のアドバイス／参 競技かるたの真髄／四 愛すべき「かるた人たち」／伍 競技かるたへの想いを込めて／［付録］競技かるたQ＆A・専門用語の解説

▶46判・216頁／定価1,785円　ISBN978-4-7842-1376-4

書評・紹介一覧　9～11月掲載分

※（評）…書評（紹）…紹介（記）…記事〔敬称略〕

近世地域教育史の研究
（評）日本教育史研究 26号（梶井一暁）

中世京都の都市と宗教
（評）織豊期研究 9号（矢部健太郎）

茶道と恋の関係史
（評）『大阪人』2007年10月号（佐伯順子）

近代新潟におけるプロテスタント
（評）『日本歴史』713号（鵜沼裕子）

眼科医家人名辞書
（評）『日本医史学雑誌』53巻3号（山之内夘一）

文学に見る痘瘡
（紹）日医ニュース 9/20
（評）国文学解釈と鑑賞 72巻12号（志村有弘）

夏目漱石における東と西
（評）『国文学解釈と鑑賞』72号11巻（上田正行）

中国銅銭の世界
（評）『歴史学研究』834号（膳智之）

八瀬童子　歴史と文化
（記）読売新聞 9/27朝刊地域面
（紹）『日本歴史』714号

日本産業技術史事典
（評）しんぶん赤旗 9/5（玉川寛治）
（紹）週刊日本経団連タイムス 9/6
（紹）朝日新聞 9/9朝刊読書面
（紹）会議所ニュース（日本商工会議所）9/11
（紹）上毛新聞 9/23朝刊読書面
（紹）読売新聞 10/7朝刊文化面

伝統工藝再考　京のうちそと
（記）読売新聞 9/20朝刊文化面
（紹）中外日報 9/25
（評）北国新聞 10/11朝刊文化面

バーナード・リーチ再考
（紹）『炎芸術』92号
（紹）『陶説』656号

近世寺社参詣の研究
（紹）神道フォーラム 18号

陰陽道の神々
（紹）京都新聞 10/7朝刊読書面
（紹）中外日報 10/23
（紹）神道フォーラム 18号
（評）週刊読書人 11/30（梅田千尋）

安房妙本寺日我一代記
（紹）中外日報11/6

室町・戦国期研究を読みなおす
（紹）日本歴史 713号
（紹）日本経済新聞 11/28夕刊（井上章一）

敢えて風雪を侵して
（紹）同志社タイムス 11/15

京都源氏物語地図
（記）時事通信 11/27
（記）読売新聞 11/28朝刊京都面
（記）京都新聞 11/28朝刊社会面
（記）日本経済新聞 11/28朝刊京都面
（記）朝日新聞 11/28朝刊京都面
（記）産経新聞 11/28朝刊京都面
（記）毎日新聞 11/29朝刊社会事件ひと話題面

▶てぃーたいむ余録◀

雑誌もテレビ番組も食べ物も「京都」と名がつくものは、大人気の昨今。かくいう「よそさん」の私も、ついつい「京都限定」には心が惹かれます。

さて、『みやこの近代』は京都人の暮らしのパートナー『京都新聞』に2年間にわたり連載された、ランドスケープの丸山先生・建築の伊從先生・歴史の高木先生とそれぞれご専門の異なる先生方を中心としたフィールドワークの成果です。インタビューで「目に見えないところに歴史が残っている」とおっしゃった伊從先生のお言葉が印象的でした。この冬は、本書を片手に友人と近代京都散策をしたいと思います。（R）

▶表紙図版◀

書画展覧余興之図（河鍋暁斎記念美術館蔵）
（『酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会』より）

▶営業部より―報道のプロに学ぶ―◀

紫式部旧宅跡とされ、平安朝の庭園の「感」を表現したという「源氏庭」が美しい京都の廬山寺で『京都源氏物語地図』出版の記者発表が行われました。新聞・通信社はじめ地元テレビ局までが参集し、当日夕方のテレビニュースでとりあげられ、また翌日の各紙京都面を大きく飾ることになりました。

そこでの一コマ。記者の質問に先生方が答え、それに対して記者がこう切り返します「（聞きたいのは）そういうことではなくて、～ということです」。このやりとりが2回ありました。

普段、営業先・取引先や著者、はては社内でのやりとりのなかで、聞くべきこと、話すべきことが整理できず、曖昧なまま話しを終えてしまう我が身を反省し、大いに勉強させていただきました。（h）

9月から11月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本回数	巻数	巻タイトル	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
佛教大学鷹陵文化叢書	17	17	陰陽道の神々	1366-5 C1014	07050313	0868437	08310500	2,415	9
龍谷大学善本叢書	26	26	太平記	1365-8 C3393	07055493	0950499	08390817	15,750	10
東寺百合文書	5	第1期第5巻	ハ函二	1364-1 C3321	07055488	0951247	08390809	9,975	10
新島襄を語る	4	4	敢えて風雪を侵して	1375-7 C1016	07056988	0951214	08418527	1,995	10
御堂関白記全註釈	6	第2期第6巻	寛弘5年	1374-0 C3321	07063678			5,250	11

9月から11月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
バーナード・リーチ再考	エドモンド・ドゥ・ヴァール	1359-7 C3070	07050201	0868440	08287377	5,040	9
近世寺社参詣の研究	原淳一郎	1363-4 C3021	07050277	0868397	08287385	6,615	9
安房妙本寺日我一代記	佐藤博信	1373-3 C3021	07052451	0950496	08356768	3,150	10
室町・戦国期研究を読みなおす	中世後期研究会編	1371-9 C3021	07053756	0950507	08356776	4,830	10
南都寺院文書の世界	勝山清次編	1369-6 C3021	07055472	0950502	08390759	6,090	10
東アジアの本草と博物学の世界(上)(2刷)	山田慶兒編	0883-8 C3021		9556562	95492526	7,875	10
東アジアの本草と博物学の世界(下)(2刷)	山田慶兒編	0885-2 C3021		9556563	95492500	7,875	10
近世長崎・対外関係史料	太田勝也編	1362-7 C3021	07056940	0951245	08390791	16,800	10
森有礼における国民的主体の創出	長谷川精一	1367-2 C3021	07057735	0951965	08426033	9,450	11
伊藤孝男の百人一首・競技かるた	伊藤孝男	1376-4 C0076	07058895	0952207	08475584	1,785	11
京都源氏物語地図	㈳紫式部顕彰会編纂	1372-6 C1091			08491003	840	11
系譜伝承論	佐々木哲	1370-2 C3021	07063668		08501355	3,990	11

(表示価格は税5%込)

思文閣美術館ご案内

愛(め)でたきもの

雛とミニチュアのお道具展

―ミニチュアで織りなす『源氏物語』の世界―

2008年2月23日(土)〜4月6日(日)

10：00〜17：00　月曜休館

本展では、豆雛と雛道具を中心に、関西特有の雛道具（お台所道具）、貝合わせ、豆人形や豆印籠など、約1,000点を一堂にご紹介します。

また、『源氏物語』千年紀に合わせ、『源氏物語』にまつわるミニチュアの展示コーナーを設けます。

【入館料】

一　般700円(550)
高大生500円(400)
小中生300円(200)
( )内は前売・団体料金

会期中、手作り講習会を開催します！

詳しくは、来年発行予定のチラシや、当館ホームページ等をご参照ください。

お問合せ

〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7
TEL075-751-1777　FAX075-762-6262
http://www.shibunkaku.co.jp/artm/

思文閣出版古書部

古典籍を中心に古文書・古写経・絵巻物・古地図・錦絵から学術書全般に至るまで、目録販売を中心に、あらゆるジャンルの商品を取り扱っています。

第205号〈浮世絵・古筆特集〉
(浮世絵・古筆・和本)
ご注文承り中

※『思文閣古書資料目録』をご希望の方は、下記古書部までお問い合わせ下さい

(猫鼠合戦 一枚 芳年画 彩色刷)

〒605-0089　京都市東山区古門前通大和大路東入元町357
Tel.075-752-0005㈹　Fax.075-525-7155
http://www.shibunkaku.co.jp/kosho
e-mail　kosho@shibunkaku.co.jp

ご希望の書籍を弊社にてお手にとってご覧いただけます。
お手配に時間のかかる書籍もございますので、事前にご連絡下さい。

刊行図書目録の最新号（2007年版）をご希望の方はお申しつけ下さい。

株式会社思文閣出版

〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7　☎075-751-1781㈹　FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/　e-mail: pub@shibunkaku.co.jp